

令和6年度 自己点検・評価結果報告書【設備（ICT）】

推進責任者：宇佐川理事（情報ガバナンス担当）

1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

自己点検の観点	自己点検・評価項目	実施方法	エビデンス	判定結果
教育研究活動を展開する上でのICT環境の整備状況	学内LAN（学内ネットワーク）の整備状況が適切であること。	学内LAN及び対外接続、無線LANの設置の状況、学生実習用PC台数について確認する。	・令和6年度学術情報基盤実態調査（コンピュータ及びネットワーク用） ・国立大学法人情報系センター協議会調査書（取扱注意）	適切である。
	コンピュータやシステムの整備・運用状況が適切であること。	端末、認証基盤の整備状況、クラウドの運用状況について、確認する。	令和6年度学術情報基盤実態調査（コンピュータ及びネットワーク用）	適切である。
	教育への活用が適切であること。	情報リテラシー教育、ネットワークを介した遠隔教育の実施状況について確認する。	令和6年度学術情報基盤実態調査（コンピュータ及びネットワーク用）	適切である。
	コンピュータやネットワークに関するポリシーを明確に定めていること。	情報戦略の策定状況、セキュリティポリシーに基づくセキュリティ対策の実施状況について確認する。	令和6年度学術情報基盤実態調査（コンピュータ及びネットワーク用）	適切である。

2.結果総括

【優れた点】
【改善を要する点】 BYOD(Bring Your Own Device)の推進がなされているため、さらなる無線基地局の増設ならびに旧型の無線基地局の更新を行う必要がある。